

明德女子3年連続準V

男子単 加藤(明德) 8強ならず

全国高校総体

全国高校総体(インターハイ)は12日、札幌市北ガスアリーナ札幌46などで行われた。卓球女子団体の明德義塾は決勝で四天王寺(大阪)と3年連続で対戦し、0-3で敗れた。四天王寺は10大会連続優勝。男子団体の愛工大(愛知)は7大会連続の制覇。シングルス男子の加藤公輝(明德義塾)

卓球

▽北ガスアリーナ札幌46
▽男子団体決勝

愛工大 3(単2-0)0 明豊
名響 3(複1-0)0 天分
(愛工大名響は7大会連続21度目の優勝)

▽同シングルス2回戦

加藤公 3 1111 811 1
明德義 3 1111 411 4
福成 3 54 114
福井 3 54 114

人田尚 3 11111 785
北海道 3 785
永井愛 3 785

池田康 3 121411 10126
太朗本 3 10126
坂本倫 3 10126

加藤公 3 111211 3105
千代葉 3 3105
関根慧 3 3105

藤元駿 3 111317 71115
心齋藤 3 71115
学舎修 3 71115

【女子団体決勝 四天王寺-明德】明德の第2単・中本が四天王寺・青木との第1ゲームを9-7とリードし、こぶしを突き上げて喜ぶ(北ガスアリーナ札幌46)



は5回戦で敗れ、準々決勝進出はならなかった。柔道の女子個人戦は78kg級で中野弥花(佐賀商)が初優勝し、団体との2冠に輝いた。佐賀商勢は78kg超級の井上朋香、63kg級の清水優陸を合わせて3階級を制した。70kg級は前田凜(滋賀・比叡山)が頂点に立った。重量挙げ女子55kg級は川崎菜々紗(京都・海洋)がスナッチ82kg、ジャーク101kg、トータル183kgと、いずれも大会新記録で2連覇した。新体操団体は男子の井原(岡山)が2年ぶりに制し、女子は日ノ本学園(兵庫)が初優勝。

丸山哲 3 11111 189
史山哲 3 11111 189
菅望が 3 11111 189
人田尚 3 11111 189
加藤公 3 13111 1197
輝加藤 3 13111 1197
杉浦涼 3 11111 1197
愛工大 3 11111 1197

▽同4回戦

小野泰 3 12111 1098
和根北 3 12111 1098
出雲北 3 12111 1098
藤元駿 3 12111 1098

▽同5回戦

兼吉 3 11111 1177
青木 3 11111 1177
伊藤詩田 3 11111 1177
渡水 3 11111 1177
伊藤詩田 3 11111 1177
渡水 3 11111 1177

▽同3回戦

団結力でつかんだ「銀」

今大会の団体戦は試合全てに第1単で出場して計4勝し、敢闘賞に選ばれた上田。11日に準決勝で勝った後、こう話していた。去年は決勝までずっとベンチにいた。自分たちの力で、先輩たちと同じ場所に来たのが信じられない。明德女子チームの全員が同じ思いだった。チームは絶対絶命のピンチを何度も乗り越えてきた。具休決勝では土佐女にダブルス戦で先行を許すなど、苦しみ抜いた末の3-1。北海道に乗り込んでからも、3回戦と準決勝はいずれも逆転の3-2で、初戦の2回戦から準決勝までの4試合全て、ダブルスを落としながら勝っている。奇跡のような快進撃について主将の中本は「チームを、仲間を信じて」と。そこが明德のいいところ。試合中、ピンチでタイムを取ると、1分間のうち40秒くらいは佐藤利香監督の戦術面の話。残り20秒は他の選手も加わって「大丈夫だよ! いけるよ!」などと声をかける。そうやって選手たちは、頭は冷静に心は熱く、卓球台の前に戻っていく。

3年連続となった四天王寺との決勝は、上田、中本の単2人と水野・渡辺の複がいずれも0-3で、スコア上は完敗。しかし、手も足も出なかつたわけではない。第2単の中本はレシーブやサーブの回転の掛け方を工夫し、第1ゲームは開始から2ポイントを先取。優位に試合を進

め、相手が首をかき上げた顔をしかめたりする場面が何度もあった。「日本で2番目に強いチーム」の座を、3年続けて守った明德。「団結力は日本一です」と、中本は誇らしげに笑った。(井上夫太郎)